

## II 新市建設計画の策定方針

### 趣旨

さいたま市と岩槻市との合併後の新市の建設を総合的かつ効果的に進めることを目的に、両市の一体性の速やかな確立及び地域の均衡ある発展と住民福祉の向上を図るため具体的な施策の方向を示すものとします。

### 構成

本計画は、新市建設の基本方針、事業計画及び財政計画を中心に構成します。

### 期間

本計画の期間は、合併年度及びこれに続く10か年度とします。

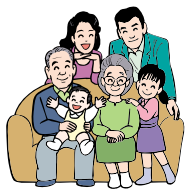
### 対象区域

本計画は、さいたま市及び岩槻市の区域を対象とします。  
**計画の基本指針**

1. 岩槻市第3次総合振興計画を参考に、さいたま市総合振興計画を踏まえた計画とします。
2. 地方財政の厳しい状況の下限られた財源の重点的かつ効率的な配分を基本に、真に両市の合併後のまちづくりに資する計画とします。
3. 合理的で健全な財政運営に裏付けられた計画とします。
4. 地域の特性やバランスを考慮した計画とします。

## III 人口の推計

新市の人口は、今後も社会増が引き続き見込まれ、平成26年には129万8千人に達すると推計されます。また、年齢3区分別人口の年少人口(0～14歳)は17万7千人、生産年齢人口(15～64歳)は85万人、老年人口(65歳以上)は、27万1千人と推計されます。



## IV 新市建設の基本方針

### ■新市建設の基本理念と将来都市像

#### 【基本理念】

#### ◆市民と行政の協働

市民と行政がそれぞれの役割と責任を自覚し、協働によって、地方分権をリードする市民本位の自立した都市づくりを進めます。

#### ◆人と自然の尊重

一人ひとりの市民が互いを思いやり、積極的に交流を図りながら、私たちが生きる環境を大切にし、人と自然を尊重した都市づくりを進めます。

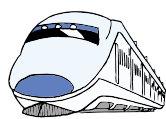
#### ◆未来への希望と責任

さいたま市らしい固有の魅力を創出し、活力に満ち未来への希望にあふれる持続可能な都市づくりを進め、未来に引き継いでいく役割と責任を果たします。

#### 【将来都市像】

#### ▼多彩な都市活動が展開される東日本の交流拠点都市

新市には、新幹線5路線などが集まる交通の要衝という特性に加え、東北自動車道などの高速道路の利便性にも優れ、120万規模の人口、また、様々な都市機能の集積があります。さいたま新都心の整備を契機として、ヒト・モノ・情報の拠点性を高めながら、新しい産業や多種多様な市民活動を創造して、国内外と交流する活力ある自立都市を目指します。



#### ▼見沼の緑と荒川の水に象徴される環境共生都市

新市には、首都圏有数の自然資源である見沼田圃や荒川な

どがあり、また、様々な生物が生息する緑地や水辺も残されています。このような空間を保全、再生、創出するとともに、地球環境問題にも積極的に取り組み、人と自然が共生する緑豊かな都市を目指します。



#### ▼若い力の育つゆとりある生活文化都市

福祉・教育などの社会的なサービスや様々な生活基盤の充実を図り、すべての市民が多様な価値観やライフスタイルに応じた質の高い、心豊かな生活を送ることができる都市づくりを進めます。

また、時代を担う人材を育て、新しい文化を生み出す個性と魅力あふれる都市を目指します。

